

J-①三篠の藍（アイ）復活プロジェクト

地域を学ぶ	○	地域でつながる	○	地域に還す	
-------	---	---------	---	-------	--

1 学習プログラムの展開（令和3年度）

日程	場所	学習・活動内容
5月19日（水） ～	三篠公民館	○藍の種まきと育苗 地域在住の染色家や地域団体，商店街，公民館関係者でプロジェクトチーム（以下「チーム」という）を作り，公民館において種まきを行い，水やりなどして苗を育てた。
6月10日（木）	三篠小学校	○小学校の花壇整備 小学校内外の花壇をチームメンバーと小学校教員で整備し，施肥を行った。
6月22日（火）	三篠小学校	○小学校での全体学習（6年生） 総合的な学習の時間において，地域の歴史グループ代表とチームの染色家を講師にして「三篠の産業～歴史と藍づくり」について学習した。
6月30日（水）	三篠小学校	○小学校の花壇への定植（6年生） チームメンバーが協力し，公民館で育てた苗を6年生が小学校花壇に植え込みした。
7月～	三篠公民館 三篠小学校	○花壇の管理（児童他） ○染め物用材料の準備（商店街，小学校ふれあい推進員他が協力）
9月15日（水） 17日（金）	三篠小学校	○藍染め体験授業（6年生） 総合的な学習の時間において，チームの染色家を講師にして，チームメンバーと母親クラブのサポートを得て藍染め体験を行った。（来年に向け採種も行う）



藍の収穫



藍染め体験



子供たちの作品

対象	広島市立三篠小学校6年生ほか
経費	令和3年度は横川エリアマネジメント連絡協議会による支援有り 約7万円
連携先	地域在住の染色家及び花づくりボランティア，歴史グループ，商店街，地域団体の関係者

問合せ先

広島市三篠公民館
〒733-0004 広島県広島市西区打越町 10-23
電話：082-237-3077 ファクシミリ：082-237-3077

2 講座設定の理由（学習の目的）

江戸時代から葉藍は重要な地域の作物であり、この地域では特に上質な生藍を生産していた。そして明治時代には、三篠の「製藍」、いわゆる「あい玉」がさかんに移出されていた歴史がある。（三篠郷土史より）

こうしたことから、地域や学校と連携して藍の生育から染色等に取り組むことを通して、地域住民だけでなく、子供たちに自分たちの地域の歴史を知り、好きになってもらうきっかけづくりや思い出づくり、地域コミュニティの活性化等につなげていく。

また、子ども達が地域資源である葉藍などの伝統文化へ関心や愛着を感じ、学校と地域が一体になり伝統文化や地域コミュニティの活性化を推進していこうとする気運を高め、ネットワークの構築を図る。

3 学習目標

- 子ども達が地域の伝統文化である藍染めについて学ぶことで、地域の伝統・文化の魅力について理解を深める。
- 地域住人との多世代で交流することを通して、子ども達が自分の気持ちを伝えることができる。
- 子ども達が地域の伝統文化を体験的に学ぶことにより、地域に対する愛着を深めることができる。
- 地域の伝統文化について、多世代で交流しながら体験的に学ぶことを通して、地域住民の連帯感を高めることができる。

4 事前に必要な知識や準備物

- 地域在住の染色家に藍染めに関する詳しい話を聞くとともに、藍染めの歴史や生育に用いる材料等について事前学習を行った。
- 地域団体関係者に藍づくりのための土づくり、育苗についての指導をしていただいた。
- 染色に適した絹布を用意するため、商店街店舗（骨董屋）から肌襦袢を提供いただくとともに、学校ふれあい推進委員が縫製して全児童分（140枚）を確保することで子ども達の金銭的負担が生じないようにした。

5 留意点

- 藍が途中で枯れることがないように、地域の花ボランティアグループに協力いただき、水やり等をこまめに行った。
- 新型コロナウイルス感染症対策をきちんと行った上で事業を実施した。
- 今回の学校授業における染色家への報償費等については、地域団体（横川エリアマネジメント連絡協議会）に支援していただいた。

6 成果

- 小学校での「藍染め体験授業」の前に、公民館で地域住民や学校の教職員、協力者を対象とした藍染め講座を実施したことから、地域住民や教職員も藍染めの魅力を理解した上で子ども達の支援に関わることができた。
- 子ども達への支援を通して、地域住民が地域の歴史・伝統産業について理解を深めることができた。
- 子ども達が地域住人と多世代で交流する機会を提供できた。
- 藍の生育から藍染め体験までを自分たちで行うことで、子ども達は藍に対する理解を深めるとともに、地域に対する理解や愛着を深めることにつながった。
- 小学校、公民館、地域の団体、商店街等、様々な関係機関が連携して事業を行うことで、地域における絆づくりに寄与することができた。

7 課題

- 今回は小学生を主な対象としていたため、中学生や高齢者が関わる場面が十分になかったが、今後はこの活動の対象をさらに広げていく仕組みが必要である。
- 事業の継続や発展に向けて謝礼金や必要物品の購入など、予算確保が必要である。

8 今後に向けて

- 今年度は時期的に小学生が藍の種まきや育苗に携われなかったため、来年度は種を撒くところから小学生が主体的に関与できるようにしていきたい。
- 行政の補助金等も活用し、事業に係る資金を計画的に準備できるようにしていきたい。
- 藍の生育、藍染め体験以外にも、藍を活用した事業を展開していきたい。